

貸借対照表

(2019年3月31日現在)

(単位：百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流 動 資 産	190,533	流 動 負 債	65,099
現金及び預金	376	支払手形	2,278
受取手形	1,111	電子記録債務	4,366
売掛金	71,512	買掛金	22,798
リース投資資産	128	リース債務	34
番組勘定及びその他の製作品	9,160	未払金	12,843
貯蔵品	68	未払費用	7,111
前渡金	9,760	未払法人税等	3,224
前払費用	2,367	前受金	1,392
預け金	94,710	預り金	5,280
その他流動資産	1,438	従業員預り金	2,779
貸倒引当金	△102	返品調整引当金	39
固 定 資 産	78,222	役員賞与引当金	26
有 形 固 定 資 産	49,656	その他流動負債	2,925
建物	23,474	固 定 負 債	29,241
構築物	361	長期リース債務	15
機械及び装置	4,678	退職給付引当金	28,943
航空機	0	資産除去債務	110
車両運搬具	23	その他固定負債	172
工具器具備品	1,728	負 債 合 計	94,341
土地	16,467	純 資 産 の 部	
建設仮勘定	2,922	株 主 資 本	174,423
無 形 固 定 資 産	6,411	資 本 金	8,800
ソフトウェア	5,830	資 本 剰 余 金	153,017
その他無形固定資産	580	資 本 準 備 金	2,200
投 資 其 他 の 資 産	22,155	その他資本剰余金	150,817
投資有価証券	587	利 益 剰 余 金	12,605
関係会社株式	2,312	その他利益剰余金	12,605
長期前払費用	282	繰越利益剰余金	12,605
繰延税金資産	10,890	評 価 ・ 換 算 差 額 等	△7
リース投資資産	1,112	その他有価証券評価差額金	△7
差入保証金	6,096	純 資 産 合 計	174,415
その他投資	1,013	負 債 ・ 純 資 産 合 計	268,756
貸倒引当金	△140		
資 産 合 計	268,756		

損 益 計 算 書

(2018年4月1日から
2019年3月31日まで)

(単位：百万円)

科 目	金	額
売 上 高		267,970
売 上 原 価		186,607
売 上 総 利 益		81,363
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		71,149
営 業 利 益		10,213
営 業 外 収 益		
受 取 利 息 及 び 配 当 金	135	
受 取 賃 貸 料	254	
業 務 受 託 収 入	78	
雑 収 入	71	539
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	26	
賃 貸 費 用	200	
雑 損 失	77	304
経 常 利 益		10,449
特 別 利 益		
固 定 資 産 売 却 益	2	
投 資 有 価 証 券 売 却 益	8	
会 員 権 売 却 益	0	11
特 別 損 失		
固 定 資 産 除 却 損	80	
関 係 会 社 清 算 損	53	134
税 引 前 当 期 純 利 益		10,326
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	3,536	
法 人 税 等 調 整 額	△146	3,389
当 期 純 利 益		6,936

株主資本等変動計算書

(2018年4月1日から
2019年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本				株主資本 合 計
	資 本 金	資本剰余金		利 益 剰余金	
		資本準備金	その他資本 剰 余 金	その他利益 剰 余 金 繰越利益 剰余金	
当 期 首 残 高	8,800	2,200	150,817	8,309	170,126
当 期 変 動 額					
剰 余 金 の 配 当				△2,640	△2,640
当 期 純 利 益				6,936	6,936
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					
当 期 変 動 額 合 計	—	—	—	4,296	4,296
当 期 末 残 高	8,800	2,200	150,817	12,605	174,423

	評価・換算差額等	純 資 産 合 計
	その他有価証券 評 価 差 額 金	
当 期 首 残 高	△21	170,104
当 期 変 動 額		
剰 余 金 の 配 当		△2,640
当 期 純 利 益		6,936
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)	13	13
当 期 変 動 額 合 計	13	4,310
当 期 末 残 高	△7	174,415

個 別 注 記 表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 資産の評価基準および評価方法

(1) 有 価 証 券

子会社株式及び関連会社株式……………移動平均法による原価法によっております。

そ の 他 有 価 証 券

時 価 の な い も の……………移動平均法による原価法によっております。

なお、投資事業有限責任組合およびそれに類する組合への出資（金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの）については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

(2) た な 卸 資 産

番組勘定及びその他の製作品……………個別法に基づく原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

貯 蔵 品……………最終仕入原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

2. 固定資産の減価償却の方法

- 有形固定資産……………定率法によっております。
(リース資産を除く) なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。
ただし、1998年4月1日以降に取得した建物等および2016年4月1日以降に取得した構築物については、定額法によっております。
- 無形固定資産……………定額法によっております。
(リース資産を除く) なお、耐用年数については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。
ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。
- リース資産……………所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零として算定する方法によっております。

3. 引当金の計上基準

貸倒引当金……債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

返品調整引当金……出版物の返品による損失に備えるため、法人税法に定める繰入限度相当額を計上しております。

役員賞与引当金……役員に対して支給する賞与の支出に備えるため、当事業年度における支給見込額に基づいて計上しております。

退職給付引当金……従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

退職給付引当金および退職給付費用の処理方法は以下の通りです。

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

② 数理計算上の差異および過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（14年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（14年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度より費用処理しております。

4. 収益及び費用の計上基準

ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準

リース料受取時に売上高と売上原価を計上する方法によっております。

5. 消費税等の会計処理………税抜方式によっております。

6. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

(表示方法の変更に関する注記)

貸借対照表

『税効果会計に係る会計基準』の一部改正(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)に伴う、「会社法施行規則及び会社計算規則の一部を改正する省令」(法務省令第5号 平成30年3月26日)を当事業年度から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。

この結果、前事業年度において「流動資産」に区分しておりました「繰延税金資産」(前事業年度1,842百万円)は、当事業年度においては「投資その他の資産」の「繰延税金資産」10,890百万円に含めて表示しております。

(貸借対照表に関する注記)

1. 関係会社に対する金銭債権および債務

短期金銭債権	94,950百万円
長期金銭債権	4,644百万円
短期金銭債務	780百万円

2. 有形固定資産の減価償却累計額 88,998百万円

3. 当事業年度までに取得した固定資産のうち国庫補助金等による圧縮記帳額は、建物80百万円、構築物46百万円、機械及び装置318百万円、工具器具備品10百万円、ソフトウェア3百万円であり、貸借対照表計上額は、この圧縮記帳額を控除しております。

4. 保証債務

被保証者	保証金額(百万円)	保証債務の内容
従業員	168	住宅取得資金借入保証

5. 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当事業年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が期末残高に含まれております。

受取手形	227百万円
支払手形	404百万円
その他流動負債 (営業外支払手形)	262百万円

(損益計算書に関する注記)

関係会社との取引

売	上	高	1,785百万円
仕	入	高	2,142百万円
販売費及び一般管理費			6,117百万円
営業取引以外の取引高			300百万円

(株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 当事業年度末における発行済株式の種類及び総数

普通株式	2,000株
------	--------

2. 剰余金の配当に関する事項

(1) 当事業年度中に行った剰余金の配当に関する事項

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年6月27日 定時株主総会	普通株式	2,640	1,320,000	2018年3月31日	2018年6月28日

(2) 当事業年度末日後に行う剰余金の配当に関する事項

2019年6月26日開催の定時株主総会において、次のとおり決議を予定しております。

決議	株式の種類	配当の 原資	配当金の 総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年6月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	6,940	3,470,000	2019年3月31日	2019年6月27日

(税効果会計に関する注記)

繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

購入番組再放映権評価損	324百万円
未払事業税	302
未払賞与	796
退職給付引当金	8,862
その他	1,091
繰延税金資産小計	11,375百万円
評価性引当額	△461
繰延税金資産合計	10,914百万円

(繰延税金負債)

除去費用資産計上額	23百万円
繰延税金負債合計	23百万円
繰延税金資産の純額	10,890百万円

(金融商品に関する注記)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、必要資金は通常の営業活動により獲得した資金から充当することを基本方針としており、借入については、設備投資などの投資資金が必要になった都度、検討することとしております。

一時的な余資は、親会社である㈱フジ・メディア・ホールディングスが提供するCMS（キャッシュ・マネジメント・システム）による資金集中制度を利用しております。

(2) 金融商品の内容およびそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形および売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当社は当該リスクに関して、取引先管理規程に従い、営業債権について各部門において主要な取引先の状況を定期的に把握し、取引相手ごとに与信限度額の設定を行い、期日および残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

預け金は、CMSによる資金集中制度の結果発生するものであり、信用リスクは僅少であると判断しております。

投資有価証券に含まれる株式および関係会社株式は、取引先企業との業務又は資本提携等に関連する株式ですが、非上場株式であり市場価格がないことから、定期的に取り先企業の財務状況等を把握しております。

投資有価証券に含まれる投資事業組合への出資は、定期的に決算報告書入手し財務状況等を把握するとともに、直近の決算書を基礎として持分相当額を純額で取り込む方法により評価しております。

営業債務である支払手形、電子記録債務、買掛金および未払金は、ほとんど1年以内の支払期日であります。営業債務は流動性リスクに晒されていますが、当社は、各部署からの報告に基づき財務部が適時に資金繰計画を作成・更新するなどの方法により、流動性リスクを管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2019年3月31日（当事業年度末）における貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については次のとおりです。

	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
<u>資 産</u>			
(1)現金及び預金	376	376	—
(2)受 取 手 形	1,111	1,111	—
(3)売 掛 金	71,512	71,512	—
(4)預 け 金	94,710	94,710	—
<u>負 債</u>			
(1)支 払 手 形	2,278	2,278	—
(2)電 子 記 録 債 務	4,366	4,366	—
(3)買 掛 金	22,798	22,798	—
(4)未 払 金	12,843	12,843	—

注1. 金融商品の時価の算定方法に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形、(3) 売掛金並びに(4) 預け金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

負債

(1) 支払手形、(2) 電子記録債務、(3) 買掛金並びに(4) 未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

注2. 非上場株式（貸借対照表計上額2,898百万円）および投資事業組合出資金（貸借対照表計上額1百万円）は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上記金額には含めておりません。

(賃貸等不動産に関する注記)

当社は、東京都その他の地域において賃貸等不動産を有しておりますが、賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(関連当事者との取引に関する注記)

親会社及び法人主要株主等

種類	会社の名称	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容	議決権の 所有(被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	(株)フジ・メディア・ホールディングス	東京都港区	146,200	認定放送持株会社	被所有 直接 100%	建物の賃借 役員の兼任	賃料の支払	6,200	前払費用 差入保証金	490 4,644

注1. 上記金額のうち、取引金額には消費税が含まれておりません。

2. 取引条件および取引条件の決定方針等

建物の賃借は、本社建物に係るものであり、近隣の取引実勢に基づいて金額を決定しております。

(1株当たり情報に関する注記)

- 1株当たり純資産額 87,207,657円61銭
- 1株当たり当期純利益 3,468,274円05銭

(重要な後発事象)

当社が加入するフジ厚生年金基金は、2019年4月1日付で厚生労働大臣より厚生年金基金代行部分の過去分返上の認可を受けました。

これに伴い、当社は「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成27年3月26日)第46項に基づき、当該認可に伴う代行部分に係る退職給付債務の消滅及びこれに伴う損益を認識いたします。

その結果、2020年3月期において厚生年金基金代行返上益15,591百万円を特別利益として計上する予定であります。なお、最終確定額は現在計算中であり変動する可能性があります。